

現状の問題・課題

(これまで各方面から指摘されてきたことを列挙)

1 洪水・高潮字のリアルタイムの情報の把握・伝達 2 平常時からの情報共有

中小河川では水位計テレメータが少なく、十分な情報が把握できなかった

ダムの貯留や放流の情報が的確に伝達されず、避難行動や水防活動に活かされなかった

各海岸ごとの潮位データの共有化が不十分であり、高潮時の浸水状況が把握できなかった

地域ごとの高潮予測ができなかった

中小河川では洪水予報が難しく、的確な水防や避難活動のためにこれに代わる情報が必要

市町村長が避難勧告等を出す判断の材料となる情報が不十分であったり、判断の考え方（基準）があいまいであったため、避難勧告等が遅れた
避難勧告等の情報の伝達が十分でなく、避難が遅れた

土砂災害で道路が被災し集落が孤立したため、情報把握、救助救援等に支障を来した

二次災害防止等の緊急対策を行う必要があるが、土砂災害の被害状況の把握や分析に時間を要した

地下街の浸水に対する避難勧告がなかった

氾濫の進行（浸水の拡大）に関する情報がなく、避難ができなかった

洪水や土石流で避難場所が浸水したり、避難路が被災したことから、水害用の避難場所を設定することが必要

中小河川では洪水予報河川以外はハザードマップの整備ができていない

河川が増水しているにもかかわらず、運行し続けてバスが立ち往生

高潮による浸水情報が把握できないまま運転を続けたため、通行中の車両内で溺死

避難勧告や津波警報が出ても避難しない人が多かった

避難場所や避難経路等を知らない人がいた

土砂災害防止のための避難基準雨量がわかっていたのに避難勧告を出さなかった

自己判断で危険な場所から避難するための知識や手段がない

3 地域の防災体制

死者・行方不明者の多くは高齢者であり、避難のための支援体制が必要
避難するのに時間がかかる高齢者等向けの避難誘導體制が必要
地域の旧来のコミュニティが衰退し共助体制が低下
水防団員の減少と高齢化により地域の水防力が低下し早期の避難体制の
検討が必要
多数のNPOやボランティア活動がなされており、効果的な水防活動等が
望まれる

共働き社会を支える保育園が孤立

地下空間における避難誘導體制が定まっていない

4 防災施設の機能の維持向上

氾濫流のエネルギーで破壊的な被害が生ずる破堤をできるだけ回避する
措置が必要
破堤は長時間高い水位を保った状態で生ずることが多いことから、これ
に対する対策が必要

8月に実施した堤防の緊急点検では、中小河川の4割で堤防の除草が行
われていないため、目視による点検が困難
緊急点検により対策が必要と明らかになった箇所について、多くの都道
府県が予算制約から十分な対策ができないと回答

より効果的なダム運用ができないかという要望がある

従来考えていた以上の波力により海岸堤防が決壊

5 従前の計画を超える豪雨・高潮への対応

従前の計画を超える大きな外力に対し、早急に効果を発現するための計
画や整備が必要

防災施設を従来の考え方で整備するだけでなく、従前の考え方にこだわ
らず多様な手法で実施することが必要

土地利用と一体となった遊水機能の確保や流域対策も検討する必要